平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月5日

上場会社名　フィールズ株式会社　　上場取引所　大
コード番号　2767　URL　http://www.fields.biz/
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 大屋　高志
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員コーポレートコミュニケーション室長　(氏名) 畑中　英昭　TEL 03-5784-2111

四半期報告書提出予定日　平成25年2月8日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　有　機関投資家・アナリスト向け

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	47,745	10.9	△1,156	―	△975	―	△677	―
24年3月期第3四半期	43,061	△39.7	22	△99.8	106	△99.1	1,132	△82.5

(注)包括利益　25年3月期第3四半期　△1,202百万円　(―%)　24年3月期第3四半期　1,015百万円　(△84.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	△20.41	―
24年3月期第3四半期	34.11	―

(注)平成24年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合をもって株式の分割を実施しました。1株当たり四半期純利益の金額については、前連結会計年度の期首に当該株式の分割が行われたと仮定して算出した数値を記載しています。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	71,136	48,691	67.9
24年3月期	93,601	51,555	54.6

(参考) 自己資本　25年3月期第3四半期　48,268百万円　24年3月期　51,071百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	―	2,500.00	―	2,500.00	5,000.00
25年3月期	―	2,500.00	―		
25年3月期(予想)				25.00	―

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無
平成24年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合をもって株式の分割をし、単元株式数を100株としました。平成25年3月期の1株当たり期末配当金(予想)については、当該株式分割を考慮した額を記載しています。なお、当該株式分割を考慮しない場合の1株当たり年間配当金(予想)は5,000円00銭(第2四半期末2,500円00銭、期末2,500円00銭)となります。

3. 平成25年 3月期の連結業績予想(平成24年 4月 1日～平成25年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	107,000	16.1	9,000	5.5	9,000	3.9	4,500	△24.9	135.61

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無
・平成24年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合をもって株式の分割を実施しました。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 有
④ 修正再表示 : 無

(注)第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しています。詳細は、添付資料P.4「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項」(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	34,700,000 株	24年3月期	34,700,000 株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	1,516,200 株	24年3月期	1,516,200 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	33,183,800 株	24年3月期3Q	33,208,017 株

(注)平成24年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合をもって株式の分割を実施しました。上記の株式数については、前連結会計年度の期首に当該株式の分割が行われたと仮定して算出した数値を記載しています。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きは終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績予想等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P.4「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

・当社は平成25年2月6日(水)に機関投資家・アナリスト向けに説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料等については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

・当社は、平成24年8月23日開催の取締役会において、株式の分割及び単元株制度の採用について決議し、平成24年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき100株の割合をもって株式の分割をし、単元株式数を100株としました。これに伴う平成25年3月期の配当予想及び連結業績予想については、該当項目をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 ……２
（１）連結経営成績に関する定性的情報 ……２
（２）連結財政状態に関する定性的情報 ……３
（３）連結業績予想に関する定性的情報 ……４
２．サマリー情報(注記事項)に関する事項 ……４
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 ……４
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ……４
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 ……４
３．四半期連結財務諸表 ……５
（１）四半期連結貸借対照表 ……５
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 ……７
四半期連結損益計算書 ……７
四半期連結包括利益計算書 ……８
（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書 ……９
（４）継続企業の前提に関する注記 ……10
（５）セグメント情報 ……10
（６）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 ……10

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

［当第３四半期連結累計期間（４月－12月、以下「当期」）の概況］

当社グループの売上高は47,745百万円（前年同期比10.9％増）、営業損失1,156百万円（前年同期は営業利益22百万円）、経常損失975百万円（同経常利益106百万円）、四半期純損失677百万円（同四半期純利益1,132百万円）となりました。

当期は、平成24年５月に発表した「成長するビジネスモデル」（コミックス、アニメーション、映画/テレビ、マーチャンダイジングにおけるシームレスな循環型ビジネス展開）に基づき、IP（知的財産）の価値最大化を主軸とする事業活動を推進しています。

収益を担うマーチャンダイジング分野では、遊技機販売の事業において、拡大基調にあるパチスロ市場へ有力商品を投入したことで、パチスロ販売台数が前年同期と比較して増加しました。その一方で、パチンコ販売台数が減少したため、総販売台数は前年同期と比較して減少しました。

成長著しいソーシャル・メディアに向けた事業では、前第３四半期よりソーシャル・ゲームに本格的に注力しており、当期も引き続き順調に推移しました。

当期の主な事業の取り組みは、下記の通りです。

（IPの取得・創出・育成　：コミックス、アニメーション、映画/テレビ分野）

魅力あふれるヒーローの創造を目指すコミック誌『月刊ヒーローズ』は、昨年11月に創刊１周年を迎えました。同誌の掲載作品数は延べ18点（平成25年２月時点）となり、作品のクロスメディア展開に向け、昨年９月より単行本『ヒーローズコミックス』を順次刊行しています。

アニメーション映画『ベルセルク』シリーズ（３部作）は、平成25年２月に第３部を公開しました。さらに、㈱創通や東宝㈱などと連携して進めている『銀河機攻隊 マジェスティックプリンス』のアニメーション化では、平成25年４月からテレビ放映が決定しました。

また、有力IPの権利保有企業とともに、長期にわたって作品群を協働で育成していくパートナーシップ戦略も継続して推進しています。

（マーチャンダイジング分野）

インタラクティブ・メディアの展開では、高い成長を続けているソーシャル・メディアに対し、収益拡大を目指した戦略を推進しています。国内有数のIPを活用したソーシャル・ゲームは順調に推移するとともに、カフェ・ショップの運営やアミューズメント施設向けの諸施策を進めました。また、当期はIPを活用した新たなソーシャル・ゲームの企画・開発を進めており、平成24年12月にソーシャル・ゲーム『蒼天航路～王者の進軍～』を投入しました。

遊技機販売の事業では、第３四半期（10月－12月）にパチスロ『バイオハザード５』およびパチンコ１機種を販売しました。この結果、当期のパチンコ販売台数は約78,600台（前年同期比　約46,800台減）、パチスロ販売台数は約92,100台（同　約18,600台増）となりました。

（注）本短信に記載の社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

（資産）

流動資産は、39,006百万円と前連結会計年度末比23,804百万円の減少となりました。これは主に売上債権の減少によるものです。

有形固定資産は、11,127百万円と前連結会計年度末比147百万円の増加となりました。これは主に本社移転に伴う固定資産の取得によるものです。

無形固定資産は、4,434百万円と前連結会計年度末比62百万円の増加となりました。

投資その他の資産は、16,567百万円と前連結会計年度末比1,130百万円の増加となりました。これは主に長期貸付金の増加によるものです。

以上の結果、資産の部は71,136百万円と前連結会計年度末比22,464百万円の減少となりました。

（負債）

流動負債は、18,303百万円と前連結会計年度末比19,621百万円の減少となりました。これは主に仕入債務の減少によるものです。

固定負債は、4,141百万円と前連結会計年度末比20百万円の増加となりました。これは主に社債の償還及び預り保証金の増加によるものです。

以上の結果、負債の部は22,445百万円と前連結会計年度末比19,600百万円の減少となりました。

（純資産）

純資産の部は、48,691百万円と前連結会計年度末比2,863百万円の減少となりました。これは主に利益剰余金の減少によるものです。

（キャッシュ・フローの状況の分析）

当第３四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ5,998百万円減少し、12,285百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、253百万円（前年同期は3,690百万円の収入）となりました。これは主に売上債権の減少19,351百万円、仕入債務の減少17,798百万円、減価償却費1,621百万円等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、4,151百万円（前年同期は3,111百万円の支出）となりました。これは主に貸付けによる支出1,441百万円、無形固定資産の取得による支出1,173百万円、有形固定資産の取得による支出1,114百万円等によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、2,097百万円（前年同期は2,395百万円の支出）となりました。これは主に配当金の支払1,648百万円、社債の償還による支出608百万円等によるものです。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

	平成25年３月期 見通し	平成24年３月期 実績	前年同期比
売上高	107,000百万円	92,195百万円	16.1%増
営業利益	9,000百万円	8,527百万円	5.5%増
経常利益	9,000百万円	8,661百万円	3.9%増
当期純利益	4,500百万円	5,991百万円	24.9%減

最近の動向を踏まえ、平成24年５月９日に発表した業績予想を修正しました。詳細は、平成25年２月１日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

２．サマリー情報(注記事項)に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しています。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第１四半期連結会計期間より、平成24年４月１日以降に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しています。

これによる損益に与える影響は軽微です。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成24年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成24年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,344	12,290
受取手形及び売掛金	34,402	15,617
商品及び製品	386	316
仕掛品	2,493	4,013
原材料及び貯蔵品	255	59
その他	7,030	6,773
貸倒引当金	△101	△63
流動資産合計	62,811	39,006
固定資産		
有形固定資産		
土地	6,642	6,640
その他	4,337	4,486
有形固定資産合計	10,980	11,127
無形固定資産		
のれん	2,498	2,255
その他	1,874	2,179
無形固定資産合計	4,372	4,434
投資その他の資産		
投資有価証券	10,241	9,366
その他	5,728	7,719
貸倒引当金	△531	△518
投資その他の資産合計	15,437	16,567
固定資産合計	30,790	32,129
資産合計	93,601	71,136
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	29,100	10,909
1年内償還予定の社債	618	310
短期借入金	450	627
1年内返済予定の長期借入金	153	137
未払法人税等	184	31
賞与引当金	315	33
役員賞与引当金	240	180
返品調整引当金	10	3
その他	6,852	6,071
流動負債合計	37,925	18,303
固定負債		
社債	300	―
長期借入金	139	146
退職給付引当金	455	509
その他	3,226	3,485
固定負債合計	4,121	4,141
負債合計	42,046	22,445

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成24年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成24年12月31日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,948	7,948
資本剰余金	7,994	7,994
利益剰余金	37,774	35,437
自己株式	△1,821	△1,821
株主資本合計	51,895	49,559
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△824	△1,290
為替換算調整勘定	△0	△0
その他の包括利益累計額合計	△824	△1,291
少数株主持分	483	422
純資産合計	51,555	48,691
負債純資産合計	93,601	71,136

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第３四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）
売上高	43,061	47,745
売上原価	26,735	32,682
売上総利益	16,326	15,063
販売費及び一般管理費	16,304	16,219
営業利益又は営業損失（△）	22	△1,156
営業外収益		
受取利息	4	11
受取配当金	169	180
仕入割引	33	132
投資有価証券運用益	94	59
その他	164	262
営業外収益合計	466	647
営業外費用		
支払利息	12	13
為替差損	16	3
持分法による投資損失	71	112
投資有価証券運用損	21	－
出資金償却	144	310
災害支援費用	84	－
その他	29	26
営業外費用合計	381	466
経常利益又は経常損失（△）	106	△975
特別利益		
関係会社株式売却益	7	7
その他	0	1
特別利益合計	7	8
特別損失		
固定資産除却損	54	42
減損損失	23	140
訴訟関連損失	30	8
その他	35	24
特別損失合計	143	215
税金等調整前四半期純損失（△）	△29	△1,182
法人税等	△1,271	△446
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	1,242	△736
少数株主利益又は少数株主損失（△）	109	△59
四半期純利益又は四半期純損失（△）	1,132	△677

四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	1,242	△736
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△224	△466
為替換算調整勘定	△1	△0
その他の包括利益合計	△226	△466
四半期包括利益	1,015	△1,202
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	906	△1,143
少数株主に係る四半期包括利益	109	△59

（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失（△）	△29	△1,182
減価償却費	1,406	1,621
減損損失	23	140
のれん償却額	236	241
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△127	△50
賞与引当金の増減額（△は減少）	△299	△281
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	△40	△60
退職給付引当金の増減額（△は減少）	55	54
受取利息及び受取配当金	△174	△192
持分法による投資損益（△は益）	71	112
支払利息	12	13
固定資産除却損	54	42
売上債権の増減額（△は増加）	27,694	19,351
たな卸資産の増減額（△は増加）	△1,951	△1,253
商品化権前渡金の増減額（△は増加）	284	△516
仕入債務の増減額（△は減少）	△16,229	△17,798
その他	△379	△1,002
小計	10,607	△759
利息及び配当金の受取額	210	208
利息の支払額	△15	△15
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	△7,112	819
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,690	253
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△955	△1,114
有形固定資産の売却による収入	4	5
無形固定資産の取得による支出	△789	△1,173
有価証券の取得による支出	△503	－
投資有価証券の取得による支出	△400	△100
出資金の払込による支出	△404	△130
貸付けによる支出	△53	△1,441
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△162	－
関係会社株式の取得による支出	△22	△10
関係会社株式の売却による収入	7	70
その他	168	△256
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,111	△4,151
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	11	176
長期借入れによる収入	－	100
長期借入金の返済による支出	△42	△109
社債の償還による支出	△670	△608
少数株主からの払込みによる収入	2	－
配当金の支払額	△1,652	△1,648
その他	△45	△7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,395	△2,097
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4	△3
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△1,821	△5,998
現金及び現金同等物の期首残高	15,632	18,284
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,810	12,285

（４）継続企業の前提に関する注記

当第３四半期連結累計期間(自　平成24年４月１日　至　平成24年12月31日)

該当事項はありません。

（５）セグメント情報等

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間(自　平成23年４月１日　至　平成23年12月31日)

「Ⅱ　当第３四半期連結累計期間　２．報告セグメントの変更等に関する事項」に記載の通りです。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間(自　平成24年４月１日　至　平成24年12月31日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当社グループは単一のセグメントであるため、記載を省略しています。

２．報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度において、当社グループのセグメントは、「ＰＳ・フィールド」「モバイル・フィールド」「スポーツエンタテインメント・フィールド」「その他・フィールド」をセグメント情報として開示していましたが、当期から４つのセグメント別区分を発展的に統合し、IP（知的財産）を基軸とする単一セグメントに変更いたします。

当社グループは、中長期的な成長・発展を遂げるために、上場時以来のパチンコ・パチスロ分野に主軸をおいたビジネスモデルから、IPに主軸をおいたビジネスモデルへの戦略転換を企図し、「成長するビジネスモデル」として戦略の整理・構築を進め、さらなる成長と発展を期しています。

当社グループは、「成長するビジネスモデル」に基づき、IPの価値最大化に主軸をおいた事業活動を推進しています。「成長するビジネスモデル」は、４つの枠組み（コミックス、アニメーション、映画/テレビ、マーチャンダイジング）を基本とし、それらの相互作用による循環型ビジネス展開を通じて、IPの価値最大化を目指します。本戦略の推進により、IPを基軸とした経営戦略の立案、経営資源の配分の決定及び業績評価を行うことから、グループ全体を単一の事業としています。

この変更により、当社グループは単一セグメントとなることから、前第３四半期連結累計期間及び当第３四半期連結累計期間のセグメントの記載を省略しています。

（６）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。